

蒼葉

裾野市立深良中学校だより

平成 23 年 12 月 7 日(水)

第 29 号

発行人 校長 鈴木史良

部活動の今後の在り方

—— 保護者・地域からの提言を受けて ——

11月25日（金）に授業参観や懇談会が行われた後、5月のPTA総会で会長から予告されていた「部活動を考える会」が開催されました。この会の開催に当たり、夏から秋にかけて現PTA三役とここ数年の歴代PTA会長が数度の話し合いを持ち、深良中が直面する課題、新たな時代に対応した部活動の在り方を模索してきました。保護者、地域の人々が子どもたちの教育について真剣に討議し、学校に提言していただくことは、形だけではない真の学校教育への参画だと私は思っています。これからも保護者・地域と学校が一緒になって子どもたちの未来を考えていく姿勢をもち続けていきます。

● 岩月PTA会長による基調提案（深良中部活動を考える会 11/25）より

（前略）今回、お集まりいただいたのは、4月のPTA総会時に予告いたしましたが、数年来深良中が抱えている部活動の問題について、保護者、地域の皆様にご意見を賜り、知恵を出し合って、今後の深良中にふさわしい、望ましい部活動の在り方を考えて学校に提言していきたいと考えるためです。そのためには、深良地区に住む子どもたち全体の幸せにつながるような視点をもつことが必要だと思います。わが息子、わが娘のためと個人的な事情を前面に押し出すのではなく、地域の子どもたち全体を考慮した話し合いになれば幸いです。なお、原案としてこの場で説明させていただく内容は、歴代PTA会長様、今年度PTA三役が学校に集まり、準備会を組織して学校側と相談しながら、これまで数回にわたり、話し合いを続けてきたものです。

さて、まずは問題提起です。現在の生徒数は138名。10年前が179名、20年前が330名。この数字をみても、深良地区では少子化が進み在籍生徒数が減少傾向にあることは明らかです。生徒数の減少率の速さに比べ、部活動についての対応が遅れ気味であったため、今年度部活動の入部が確定した時点では男子バレー部員が4名だけとなり、中体連に参加できなくなるという事態に至りました。一方、総合部は10年前の創設時には陸上競技に傑出した力をもつごくわずかな生徒だけでしたが、今日では29名と膨れあがっています。総合部は個人的な活動を認めた部であり、水泳や柔道、陸上など小学生から続けていた活動を個人で続けていく、いわば受け皿でした。

ここで部活動本来の教育的意義を問い直すと、個人的には得ることのできない集団としての営み、例えば目標をもって仲間と協力し合ったり、励まし合いながら困難を克服したりと、集団の中で協調しながら自分自身を高めていくということは部活動のもつ大切な教育的価値だと思います。授業中には見られない仲間の一面を知ることにもつながります。そういうことが子どもたちの人間形成に役立っていくのではないのでしょうか。個人的な活動を優先する総合部は、子ども自身好きな活動が選べるので、これからも増え続ける可能性をもち、学校がねらう部活動の価値からどんどん離れていくことになりかねません。言うまでもなく、学校における子どもたちは、学校教育のすべてを通して育っていくことを忘れてはならないと思います。

そこで、総合部の段階的廃止を提案いたします。現在、全体の1／5以上を占める総合部は、年々増加していく傾向にあり、他方、既存の部はますます部員不足に悩むことになります。部活動の教育的意義を考え、来年度の新1年生からはどの子どもも既存の部に所属するという形をとる方法です。個人的な活動が部活動と重なる場合は部の顧問に了解を得ることや新2，3年生については総合部という名前は残りますが、生徒の希望によっては既存の部に入部することも可能とします。個人的な活動が加入した既存の部活動と重なる場合は、顧問の了解を得て、個人的な活動を優先するようにします。それ以外の場合は既存の部活動の一員として活動していただけるとありがたいです。

二つめは、総合野球の部活動化を提案いたします。ご存じのように総合野球としてスタートした野球は、本年度中体連に参加し、また裾野市秋季大会では優勝をいたしました。戦績面だけでなく、日常の練習活動の様子をみても、他の部活動と同じように学校のきまりを遵守しています。部活動になるということは、少年野球のような社会体育ではなく、学校の管理下に入ることを意味します。顧問の教師、外部コーチを指導者として、今後の加入状況も考慮し、学校のきまりを遵守する活動ができるものと判断しております。

以上が二つの大きな提案ですが、更に部活動の運用面の工夫について二点説明いたします。

一つは、部員数が減って活動不能となった場合でもすぐに廃部とせず、休部扱いとしてその部活名を残しておくことです。こうしておけば、再びその部を復活させるときは問題なく復活させることができます。もう一つは、これまで新入生に自由に選ばせていた入部希望に第1希望から第3希望まで書いてもらうようにすることです。現在、特定の部に人数が偏っているという傾向が見られます。どうしても第1希望の部でなければならぬことはありません。人数が余って十分練習ができない環境よりも、自分が大切にされ、いつも練習できる環境の方が自分を伸ばすことができます。

以上、大きな提案として二点、運営上の工夫として二点、この場で皆様方のご意見をいただきたいと思います。この話し合いを通してで保護者、地域としての意見がまとまりましたら、わたしから学校に提言いたします。しかし、教育活動として位置づけられた部活動についての最終的な判断は学校にありますので、学校で決まった事柄については、保護者、地域が遵守、尊重していくという姿勢をこの場で確認していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

<参加者からの意見、要望>

- ・「野球部ができて他の部をなくす」ことをしない方法案はよいと思う。
- ・生徒がバラバラにならないためにも、既存の部活動に身を置くのはよい。
- ・上下関係を学び、集団で仲良くまとまっていくのはよい。
- ・新1年生への早めのお知らせをお願いしたい。
- ・結果を至急みんなに連絡してほしい。
- ・試合必要人数の半分は割り振ってほしい。生徒個人に話すというより学級全員に、「この部は〇人いれば試合に出られるよね。」など、全体で話してほしい。
- ・入学説明会などの説明などで、保護者へのフォローをお願いしたい。
- ・5年前から部活についてお願いしてきた。クラブチームに入っている子はクラブを優先してもらい、既存の部に入る子は学校のルールの下で活動しよう。
- ・総合野球で活動することに1年間「すみません」という気持ちでやってきた。こういう雰囲気これからはずくらないでほしい。
- ・人数が足りないからと言って、部活の試合に出ることを強制してほしくない。
- ・クラブチームに入っている際のスタンスを明確にしてもらいたい。



中体連の真剣勝負